

防湿剤、ビスターPの防水、床面保護を検するを目的として試験を行った。

3. 概 要 木材繊維の粗密の差のある、タブ、ヤクスギ、サクラ、カツラ、ラワンの5種を試験材とし、含水率10%に統一し、未処理材、処理材の比較試験を行った。処理方法は、ビスター液中に10分間漬け、24時間放置し、水中に10分間浸漬後の水分吸収量を重量比について検討した。

樹 種	含水率	溶液吸収率	吸 水 率		備 考
			処理材	未処理材	
タ ブ	10%	1.08%	0.77%	0.94%	
ヤクスギ	10	0.73	0.57	0.66	
サクラ	10	0.30	0.79	0.85	
カツラ	10	2.45	1.71	4.27	
ラワン	10	4.82	2.02	4.15	

4. 成 果 水中浸漬による防水効果は表からも推察される如くあまり良好とはいわれませんが、床面施工の場合、室内であつて、水分のかなり少ない所である関係上、水中に床面が没する可能性はまずないといえるしたがつて、床面上の防水効果のみを考えると、絶え間ない防水剤の塗布によつて、かなりの防水効果は期待出来ると考えられるし、又実験の結果も、導管孔よりの吸水がほとんどで、表面の水分防止が充分なされたことからもうなずける。従つて、室内の防水剤としては、先ず使用出来得ると思われる。

20 竹材の部分的強化試験

1. 担当者 工業技師 松田 健一
2. 目的 木竹材の材質改良に関する研究は今後木材工業の新指向とも云うべきものである、その一環として力織機用ステックに、従来のカン材にかわり、竹材を利用することに着目し、これに特殊加工を施して強化し耐久度を高めて良質の製品化を意図し、その製造法に研究を行ったものである。
3. 概 要 竹製力織用ステックが受ける衝撃部を強化する為に、一液性のフェノール系レジンに界面活性剤を添加し、加圧減圧装置の注入法によつて、竹材の衝撃部分の細胞の深奥部即ち芯部まで含浸させ、これを積層に、100~1100の温度で加熱し、硬化させて、機械的物理的性質の増大した強化竹を製り、その性能につき検討した。
4. 成 果 部分的強化したステックを某紡績工場にてその耐久度に対する試験を現在行

